

# Oracle<sup>®</sup> VM Server for SPARC 3.4.0.2 補 足リリースノート

2016 年 11 月

# Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 補足リリースノート

これらの補足リリースノートには、Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 保守更新リリースで解決済みの問題のリストが記載されています。

これらの補足リリースノートには、Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 保守更新リリースに関する次の情報が記載されています。

- [2 ページの「この保守更新リリースの新機能」](#)
- [3 ページの「解決済みの問題」](#)
- [3 ページの「Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 保守更新リリースに影響を与えるバグ」](#)

サポートされているハードウェア、最小のファームウェアと完全に認定されているファームウェア、Oracle Solaris OS とハードウェアについては、『[Oracle VM Server for SPARC 3.4 インストールガイド](#)』の第1章、「システム要件」を参照してください。

---

注記 - SPARC M7 シリーズサーバーと SPARC T7 シリーズサーバーの完全修飾されたシステムファームウェアバージョンは、現在 9.7.3 です。

---

Oracle VM Server for SPARC 3.4 ソフトウェアの問題については、『[Oracle VM Server for SPARC 3.4 リリースノート](#)』を参照してください。

## この保守更新リリースの新機能

### ソースドメインからの SPARC OpenStack イメージの作成

ovmtcreate コマンドには新しい `-m` オプションが用意され、openstack ディスクイメージ形式かデフォルトの ovf テンプレート形式のどちらかを選択できます。

ソースドメイン内の最初の仮想ディスクから直接、単一の圧縮されていない SPARC OpenStack と互換性のあるディスクイメージを作成するには、`ovmtcreate -m openstack` コマンドを使用します。このコマンドは、追加のディスクイメージ、OVF メタデータファイル、およびマニフェストファイルなどの追加のペイロード項目を含む完全なテンプレートを作成しません。また、このコマンドは、`.ova tar` ファイルにこれらのコンポーネントをカプセル化しません。説明を提供する、ボイラープレートファイルを指定する、またはマイナーおよびメジャーバージョンを指定するなどのほかのメタデータオプションは無視されます。

`ovmtcreate -m ovf` コマンドは、完全な OVF テンプレートを作成しますが、これは `-m ovf` オプションを使用せずに `ovmtcreate` コマンドを実行する場合と同じです。

### ベースとなるディスクデバイスの展開

`ovmtdeploy` コマンドは、テンプレートの配備中に、ベースとなるディスクデバイスをデバイスエクステンツまで展開するようになりました。この展開操作はデフォルトで行われ、ディスクデバイスだけをサポートし、ディスクイメージファイルはサポートしません。`ovmtdeploy -x` コマンドを使用して、実行時に展開操作を無効にできます。

以前には、結果生成されるディスクのサイズは、テンプレートにカプセル化された元のソースドメインのサイズによって決定されていました。したがって、20G バイトのシステムディスクを含

むテンプレートを 600G バイトのディスクデバイスに配備すると、ディスクは 20G バイトのサイズにフォーマットされていました。ベースとなるディスクデバイスを展開できるようになったため、この同じテンプレートの配備は、600G バイトのサイズいっぱいまでフォーマットされま

す。

ベースとなるディスクデバイスが展開されているときに、ゲストドメイン OS によっては、より大きな領域を認識し、その領域まで増大するために追加のアクションを実行しなければならない場合があります。Oracle Solaris OS でこれらのアクションを実行するには、配備操作の直後に `/opt/ovmtutils/share/scripts/ovmt_s11_expand_disk.sh` スクリプトを実行します。[ovmtconfig\(1M\)](#) のマニュアルページを参照してください。

## 解決済みの問題

Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 ソフトウェアリリースでは次の問題が対処されています。

22999762	移行中に <code>pmi_del_guest_policy_by_name()</code> でクラッシュする
23205662	回復モード中の静的仮想機能の作成のサポート
23222277	キーストア名と値の長さのチェックが正しくなく厳密すぎる
23643345	raw イメージだけ (OVA バンドルなし) を作成する新しいオプション
24290211	ターゲットの論理ドメインブートディスクサイズがテンプレートサイズと同じになる
24393931	論理ドメイン Manager は、 <code>hv_allocation_pblock</code> 予約クラス/タイプに従う必要がある
24422480	<code>ovmtdeploy</code> は、ディスクイメージの書き込み後にデバイスエクステントまでパーティションを展開する必要がある
24443741	<code>ovmtprop</code> が「=」を含むプロパティ値文字列を正しく設定しない
24472712	<code>xmpp_close_conn()</code> が無効な <code>cli_conn_t</code> にアクセスする
24660378	警告: ボード /SYS/PM1: socket/cmdqueues フラグのインストール試行が失敗した
24711430	キーストア 'updates_request' ミニ MD にルートノードがない
24754492	<code>shrink-socket</code> コマンドの繰り返しのあとで <code>ldmd</code> がコアダンプする
24833609	raw ディスクイメージパスが使用されてるときに、 <code>-v</code> オプションを付けた <code>ovmtdeploy</code> が失敗する

## Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 保守更新リリースに影響を与えるバグ

このセクションで説明されているバグは、Oracle VM Server for SPARC 3.4 ソフトウェアにも影響を与えることがあります。

## パーティションが展開している場合でも ovmt\_s11\_expand\_disk.sh スクリプトがエラーで終了する

**バグ ID 24904895:** ovmt\_s11\_expand\_disk.sh スクリプトを実行すると、パーティションがデバイスエクステンツまで展開している場合でも、このスクリプトはエラーで終了します。

**回避方法:** エラーを無視してください。

## SPARC M7 シリーズサーバー: CMIOU ボードを追加した後での保存した構成からのブート

**バグ ID 22012359:** 部分的に入力されたシステムを追加の CMU または CMIOU でアップグレードし、続いて既存の構成をブートしようとする、その構成は拒否され、システムは出荷時デフォルト構成に戻されます。

論理ドメイン Manager は回復モードを使用して構成を復元します。ただし、回復は名前付きリソースを保存しないため、別の CPU とメモリーリソースがドメインに割り当てられる場合があります。回復モードによる構成の再構築によって、システムは操作可能状態に戻ります。

**解決方法:** CMIOU ボードを追加したあとに SPARC M7 シリーズサーバーで、保存した構成から正しくブートするには、少なくともバグ ID 22012359 に対処したバージョン 9.7.3.b のシステムファームウェアをインストールする必要があります。

Oracle VM Server for SPARC 3.4.0.2 補足リリースノート

**Part No: E79632**

Copyright © 2007, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

**Part No: E79632**

Copyright © 2007, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.